

新モビリティ導入検討協議会 《第8回議事録》

- 日時：令和8年3月26日（木）16：00～16：40
- 場所：大阪府庁 本館1階 第一委員会室
- 出席者：吉村洋文、森岡武一、美馬一浩、岡田秀樹、丸毛篤也、泉憲、城田国昭、
（名簿順）江藤良介、河井英明、豆谷美津二、福田利男、柿本恭志

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

お待たせいたしました。

定刻となりましたので、ただいまから第8回新モビリティ導入検討協議会を開催いたします。

本日は大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

私は本協議会の司会を務めます、大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課の松原と申します。

どうぞよろしく願います。

本日の会議は「公開」で行いますのでよろしく願います。

ではご出席者のご紹介をさせていただきます。

まず、大阪府側でございますが、吉村知事でございます。

森岡副知事でございます。

美馬都市整備部長でございます。

岡田事業調整室副理事兼富田林土木事務所長でございます。

その他の大阪府出席者につきましては、お手元の出席者名簿にてご確認ください。

次に大阪市高速電気軌道株式会社の方々でございます。

河井代表取締役社長でございます。

豆谷取締役でございます。

福田執行役員でございます。

柿本交通事業本部モビリティ技術開発部長でございます。

以上よろしく願います。

それでは協議会の開会にあたりまして、吉村知事よりご挨拶を申し上げます。

○吉村知事

知事の吉村です。

本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

前回の協議会においては Osaka Metro さんから独自の特別点検・試走等に関する車両の安全性の確保、そこに加えまして、南河内地域における安全走行への必要な方策などについて説明をいただきました。

この自動運転の技術、そして南河内において実証実験をしていこうという大きな方向性、これにつ

いては Osaka Metro さん本当にいつもありがとうございます。
また関連の市町村の皆様、本当にありがとうございます。
大阪府としてもしっかりと進めていこうという方向であります。
ただ一方で安全性というのは非常に重要でありまして、車両の点検等で販売元の敷地内で試走している中で、一部車両の不具合が発生したと聞いております。
原因、また今後の対応策について今日 Osaka Metro さんからご説明をいただきたいと思います。
何よりモビリティですから、移動手段でもありますので、安全性っていうのは最も大切であります。
そうした安全性をしっかりと確保した上で、実証実験、そして未来への新たな移動技術というものを深めてまいりたいという、大きな方向性を共有してまいりたいと思います。
どうぞよろしくをお願いします。
今日はありがとうございます。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございました。
続きまして、河井代表取締役社長よりご挨拶を申し上げます。

○河井代表取締役社長

ただいまご紹介いただきました河井でございます。
使用予定の車両の安定性・安全性の確保を目指してですね、1月30日から特別点検および試走を行ってまいりました。
しかし2月25日に車両の大きな不具合が発生いたしました。
現在原因究明に全力を尽くしているところでございます。
具体的な不具合の内容につきましては、後ほどご説明をさせていただきますが、3月28日のイベントにおきます試走、それから、車両展示、これができなくなること、また二度にわたりまして、テスト走行の開始が遅れておりますこと、楽しみにしていただいております関係者の皆様、また地元の皆様のご期待に添えない形になっておりますこと、このことを心よりお詫び申し上げます。
大変遺憾であり、本当に申し訳なく思っていますが、運行事業者として、輸送の安全の確保と言いますものは絶対的な使命でありまして、妥協できないものでございますので、今も鋭意取り組んでおりますことを、ぜひご理解いただければと思います。
車両の安全性に対する皆様のご懸念を払拭するために、そして南河内地域での実証試験を、素晴らしい結果になりますように、使用する車両も含めまして、今後最もいい策はどういうことかということ、大阪府の皆様としっかりと協議連携してまいりたいと思っております。
本日はぜひよろしくようお願い申し上げます。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございました。

次に資料の確認をさせていただきます。

タブレットをご確認ください。

報道の方・傍聴の方は配付資料をご覧ください。

まず、会議次第でございます。

資料1、出席者名簿、

資料2、南河内地域での実証実験（先導的モデル事業）、

参考資料としまして、新モビリティ導入検討協議会設置要綱、以上4点でございます。

過不足等ないようでしたら次の議題に進めさせていただきますが、よろしいでしょうか。

それでは、次第の通り進めさせていただきます。

まずは、丸毛事業調整室長から資料2、南河内地域での実証実験（先導的モデル事業）の1ページ目から3ページまでの車両の特別点検等の状況、今後の進め方までご説明いたします。

よろしく願いいたします。

○丸毛事業調整室長

それでは私の方から資料の説明をさせていただきます。

目次をご覧ください。

本日は車両の特別点検等の状況の説明をさせていただいた上で今後の進め方についてご議論いただきます。

その後機運醸成の取組のご紹介をさせていただきます。

1ページ目をご覧ください。

この資料は1月29日に行いました前回の第7回新モビリティ導入検討協議会の中でお示しさせていただいたスケジュールでございます。

真ん中のところに丸をつけさせていただいていますが、長期間、安定的かつ安全な走行を確保するため、Osaka Metro様において1月30日から特別点検・試走を実施していただいております。

3月からはですね、乗客なしの実証実験の開始、また6月からは乗客ありの実証実験を開始することとさせておりましたが、先ほど河井社長からもご紹介ありましたように試走を行っている中で、一部の車両において不具合が発生しましたので、その状況について、Osaka Metro様の方からご説明をいただきたいと思っております。

2ページ目をお願いします。

○柿本交通事業本部モビリティ技術開発部長

はい、Osaka Metroから説明させていただきます。

2ページ目をご覧ください。

特別点検・試走のスケジュールにつきましては先ほど説明いただけましたので割愛させていただきます。

まして、現状・経過等から説明させていただきます。

1月30日から特別点検・試走を開始しております。

2月25日に試走中の一部車両におきまして、ラテラルロッド取付部の破断が判明しました。

EVMJ社において原因究明を同日開始しております。

またその翌日の2月26日にOsaka Metroから大阪府様の方へ一報を入れさせていただいております。

また2月27日に不具合の事象につきましてEVMJ社より国交省へも報告されております。

また3月16日EVMJ社からOsaka Metroの方に引き続き破断部品の原因解析中との状況報告を受領しております。

ここで不具合の事象についてももう少し詳しく説明させていただきます。

発生日時は2026年2月25日水曜日10時頃、場所はEVMJ社のテストコースでございます。

不具合の概要として試験走行中にリアアクスル付近から異音を確認しました。

走行試験を中止しまして、床下を点検した結果、ラテラルロッド取付部の破断を確認しております。

ラテラルロッドというものはこの資料の右側に図をつけさせていただいているんですけども、青色が付いたところがラテラルロッドでございます。車軸と車体を左右に繋いで横方向の剛性を支える部品でございます。

この赤丸をつけたところの取付部が破断をしていたということでございます。

この不具合を確認したときの試験走行距離は約2,700kmでございます。

また人的被害等はありませんでした。

次のページお願いいたします。

今後の対応についてというところでございます。

まずOsaka Metroの見解を説明させていただきます。

不具合の原因究明中であるため現時点で車両の安全性の担保が取れないことから3月からのテスト走行は実施できない状況でございます。

また3月28日のイベントでの自動運転バスの走行や展示は見合わせさせていただきたいと考えております。

また不具合の原因究明等の時期につきましても、現時点で目途が立たない状況でございます。早期の実証実験・テスト走行の開始は難しい状況でございます。

これらの状況を踏まえ、本実証実験における使用車両について検討が必要な状況と認識しております。

○丸毛事業調整室長

Osaka Metro様からいただきました今の見解を受けまして、対応方針として、実証実験で走行する自動運転バスの安全性を確保することが最も重要との方針のもと、不具合の原因調査のため3月からの実証実験テスト走行の開始は延期、3月28日のイベントでのバスを走行・展示は見合わせと

させていただきたいと考えております。

またEVMJ社からの原因究明等の状況を見据え、次回の協議会に向け、EVMJ社車両に拘らず使用車両についても検討を進めていきたいというふうに考えております。

説明は以上です。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ここまでの説明や対応方針を踏まえまして、ご意見やご確認のため、意見交換に入らせていただきます。

よろしく願いいたします。

ご意見等ある方は挙手をお願いいたします。

はい、美馬部長よろしく申し上げます。

○美馬都市整備部長

すいません大阪府都市整備部長の美馬でございます。

ご説明ありがとうございます。

先ほど試走中の不具合ということでご説明いただいたんですけども、ちょっとお聞きしていると、総点検を独自でかなり細かくやっていた、主要部材については限りなく可能なところは目視し、目視だけではなくトルク確認といって、実際にボルトのところも確認いただいたということお聞きしているんですが、今回不具合が試走中に発生したということなんですけども、事前の点検で、破断みたいなことが予見できる、そういうような兆候がなかったのかってということが一つ質問で、もう一つは、一方ラテラルロッドというのがご説明いただいたところなんですけども、この不具合がバスの走行・安全性上どういふ影響を与える可能性があるのかっていうのをご示唆いただければと思います。

私から以上です。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございます。

Osaka Metroさんよろしく申し上げます。

○柿本交通事業本部モビリティ技術開発部長

はい、回答させていただきます。

1点目のご質問につきましては、当該箇所につきましても、特別点検対象として確認しておりました。

点検時点で破断を予見できるような異常、例えば亀裂ですとか、変形ですとか、緩み等の兆候は確認されなかったとEVMJ社から聞いております。

また2点目のご質問につきましては、ラテラルロッドは先ほども少し説明させていただいたよう

に、車軸と車体を左右に繋いで横方向の剛性を支える部品であります。

最悪の場合は車軸が左右にずれまして走行中の操縦安定性に影響を及ぼす可能性があるということ
を EVMJ 社から聞いてございます。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございます。

その他何かありますでしょうか。

泉副理事お願い致します。

○泉大阪府都市整備部副理事

大阪府都市整備部事業調整室の泉でございます。

私から資料 2 ページの車両の特別点検等の状況について 1 点お伺いしたいと思います。

約 1 ヶ月前の 2 月 27 日に不具合の事象について、EVMJ 社から国土交通省へ報告が行われた旨先
ほどご説明ございましたが、その後 EVMJ 社に対して不具合の事象について国土交通省から新たな
指示等はあったのでしょうか。

また現時点での対応状況について把握されている範囲でお教えいただきますようお願いいたします。

○柿本交通事業本部モビリティ技術開発部長

はい、回答させていただきます。

EVMJ 社から国土交通省へ報告が行われていることは承知してございますが新たな指示などがあつ
たかどうかにつきましては、Osaka Metro では承知してございません。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございます。

その他何かありますでしょうか。

岡田所長お願い致します。

○岡田大阪府都市整備部事業調整室副理事兼富田林土木事務所長

富田林土木事務所の岡田です。

本日のご説明の中で、資料 2、個別点検・試走中にそういう不具合が生じたと、現状・経過なり、
また Osaka Metro さんとしての今後の対応についてご説明をいただいたわけなんですけれども、やっ
ぱり我々地元、今日も地元の首長さんが来られてますけど、いち早く地元で自動運転バスが走って
る姿を見たいという意味では、今後、この不具合を含めて実証実験における地元でのテスト走行の
時はいつになるのかというのが、非常に一番関心があるというか、一番気にしているところなん
ですけど、今わかる状態でご見解を聞かせていただきたいんですが、いかがでしょうか。

○柿本交通事業本部モビリティ技術開発部長

はい。

現在不具合の原因究明とそれに対する対策の内容の結果に左右されると考えておりますため、現時点でテスト走行開始の見込みを提示することができる状況ではございませんことをご理解いただければと思います。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございます。

その他何かございますでしょうか。

森岡副知事お願いします。

○森岡副知事

今回の不具合をなかなか想定できなかったということですがけれども、やっぱり安全に直結するような、こういった不具合というのは本来あってはならないというところもあるかと思えます。

今後そういった不具合は発生しないように、どうしたらいいのかなということと、先ほどもお話あったように特に地元の方、それと府民の方の不安というのをどうやって払拭したらいいのかなというところがありまして、そのあたりご見解をいただければと思います。

○福田執行役員

ありがとうございます。

Osaka Metro の福田でございます。

当社として、まず輸送の安全確保というのを最優先に考えております。

本不具合の原因究明の目処が立っていない状況でございます。

発生防止という観点で、対応策を現時点でお示しするということが非常に難しい状況でございます。

誠に申し訳ございません。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございます。

森岡副知事お願いします。

○森岡副知事

もう一点、先ほどの資料3ページにありますように、今後の対応の中で、「これらの状況を踏まえ、本実証実験における使用車両について検討が必要な状況」ということですがけれども、具体的には代替車両の活用とか、そういったものもご検討の中に入るという理解でよろしいでしょうか。

○福田執行役員

はい、ありがとうございます。

おっしゃる通り、代替車両の活用も視野に入れた検討が必要と考えております。

○森岡副知事

はい、ありがとうございます。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございます。

その他何かありますでしょうか。

知事お願いします。

○吉村知事

はい。

まずこの自動運転のバスか自動運転の技術かというところの見方もあると思います。

この自動運転のバス、それから技術がですね、この 2025 年の万博で披露されてそしてこれは Osaka Metro さんにも蓄積されてきていると思うのですが、今後の対応方針で EVMJ 社の車両にこだわらず、使用車両についても検討を進めるということなんですが、今まで蓄積したこの自動運転の技術っていうのは、車両が変わると、0 からになるのか、あるいはまず蓄積されたものは、それとして、単に車両が変わるってことになるのか、そのあたりについてちょっと教えてもらってもいいですか。

○豆谷取締役

回答させていただきます。

万博レガシーとして、この万博期間中に自動運転走行していた自動運転の技術っていうのが非常に大事なものでありまして、どちらかといいますと車両が変わるっていうことについては技術的に問題ではなくて、この技術をいかに使って南河内で生かしていくかっていうことが非常に大事と思っています。

○吉村知事

そうすると、これまで蓄積された自動運転の技術っていうのは、Osaka Metro さんにノウハウとして蓄積されてるということなんですよ。

○豆谷取締役

はい。

その通りで、蓄積された技術をこの南河内で生かしていけるということで考えております。

○吉村知事

そうしたら例えばEVMJ車両にこだわらず使用車両について検討を進めるってということなんですけど、新しい車両、これはバスの車両が他にもいくつかあると思うんですけど、走ってる分もあると思うんですが、その準備をされてると思うんですけど、そういった車両に今Metroさんの持っている技術をオンしたときにかかるその準備の期間というか、さっきも少しありましたが、テスト走行がいつになるか聞かれて、明確に答えられませんというのはそうだと思うんですけど、逆に新しい車両を準備するとして、その技術をオンするときにはどのぐらいの期間とか準備にかかるものなんですかね、車両を変えることによってすぐオンできるものなのか、どういう関係になるのか、車両と技術の関係をちょっと教えてもらえたら。

○豆谷取締役

車両と技術につきましては、一定のカメラであるとかLiDARであるとか、それが搭載されているという状態から、当然南河内の走行環境に合わせた形で調律をする必要がございます。それがおよそ3ヶ月程度かかるということですので、その後自動運転として走行ができると、そういう状態になるということで考えております。

○吉村知事

乗客乗せた実証試験が始まる時期ではなくて、そもそも3ヶ月間その前にテスト走行する予定だったじゃないですか、そのスタート地点に立つためにもし車両変更したとしたら、その車両変更しているんな技術を乗せる上でどのぐらい期間がかかるのかなってというのは、まだその車両で行くのかどうかって決めてないと思うんですけども、こだわらずってことですから、今EV車両であったりそれ以外のバスの車両っていうのあると思うんですけど、そこに、Osaka Metroさんの技術、自動運転の技術を乗せて、実証実験、テスト走行をするときにどのぐらいの期間がかかるのかなというのちょっとお聞きしたいと思いました。

○柿本交通事業本部モビリティ技術開発部長

はい、バックアップの検討は進めているところでございまして、今候補としては二つの車種を考えてございます。

そのような車両をですね、まず早くするためには、1から自動運転車両を準備するのではなくて、今日本で使われてきている車両を一旦リースすることによって、早くにリースということでありまして、もう既に自動運転車として走れる状態の車両を借りてくることによって、早期にテスト走行の開始ができるんじゃないかというふうにご検討をしております、そうするとあまり準備期間はなく開始ができるんじゃないかというふうには考えております。

○吉村知事

はいわかりました。

そしたら、一つは原因究明等の状況をしっかり見据えるっていうこと、EVMJ車両でやってきてるわけで、それをやると、もう一つはそういった例えば、もう既にある車両、リースなんかも含めて安全性を持って走れる車両に御社の自動運転の万博等で培った技術をオンして実証実験する、その後者のやり方であればそれほど大きな時間をかけることなくまた再開できそうだと、そういう理解でよろしいんですか。

○豆谷取締役

その通りです。

できるだけ早く実証実験について実際の走行に向けて進めていきたいと思いますので、検討結果につきましては次回また報告させていただきたいと思っています。

○吉村知事

やはり先ほど社長からもありましたけど運行事業者ですから、もう絶対に妥協できないのは安全性だとそれはもうおっしゃる通りだと思うんです。

我々もそれに同意です。

ただこの Osaka Metro さんにある自動運転技術の素晴らしい技術をいかに実装していくのかというのを考えたときにそのできる限りそういった代替手段なんかを考えて、新しい方法で進めていけるのであればそれをスムーズに進めていく、それに期待されてる方も多いと思いますので、そこをしっかりと検討して進めてもらえたらと思います。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございました。

そうしましたら資料に書いております対応方針に沿ってですね、今後進めさせていただければと思っております。

次にですね、資料の方の4ページからの機運醸成の取り組みにつきまして、丸毛事業調整室長からご説明させていただきます。

よろしく申し上げます。

○丸毛事業調整室長

4ページ、機運醸成の取組として、新モビ FESTA in 南河内地域のご紹介をさせていただきます。

開催日時は3月28日の土曜日10時から15時まで。

開催場所は千早赤阪村の楠公誕生地前広場、河南町の白木山公園、太子町の太子・和みの広場で予定しておりまして、それぞれの町村の実施されるイベントとコラボレーションさせていただきまして、実施したいと考えております。

この取組を目的としてですね南河内において、持続可能な地域公共交通を確保するため、万博レガ

シーである自動運転技術を紹介することにより、地域の住民の方々の機運醸成及び社会受容性の向上を図るということでございます。

出席者は森岡副知事、地元選出の議員の皆様、また地元の首長の皆様に予定しております。

ブースの出展内容といたしまして、自動運転のクイズ、オリジナルグッズの配布、万博関連パネルの展示などを予定しております。

また会場には、それぞれ着ぐるみ、バルーン、ミャクミャク像と、それぞれミャクミャクが現場の方に登場するというのも考えております。

以上でございます。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございました。

本日の次第はこれもちまして終了いたしました。

それでは協議会の閉会にあたりまして、吉村知事よりご挨拶をお願いいたします。

○吉村知事

本日 Osaka Metro さんから、まず安全を第1にした対応、これについてご説明をいただきました。また様々な質問をさせていただきました。やはりこのバスですから安全な運転というのが、それが最優先だというふうに思っています。

このEVMJ社からのこの原因の究明の状況を見据えながら、次回協議会に向けては、EVMJ車両にこだわらず、使用車両について Osaka Metro さん等々で検討を進めていければと思いますのでよろしくお願いします。

また一方でこれは万博で培った、また Osaka Metro さんが今チャレンジしておられる自動運転の技術、ノウハウ、それは Osaka Metro さんに蓄積されてるということでもありますから、どの車両であったとしても、その運転の技術、自動運転の技術、これをさらにノウハウを蓄積してそして今実証実験をしようとしてる南河内のエリアで展開できればと思いますのでぜひご協力をお願いをしたいと思います。

またこれに向けて大きく期待をされている方も多くいると思いますので、安全をまず確保しながらその期待にもしっかりと応えられるように、そしてまた新しいモビリティというか、新しいこの自動運転の社会ということですね、Osaka Metro さんと一緒に開いていければいいなと思いますので、よろしくお願いします。

それから3月28日のイベントですけども今日もあの市町村の首長がいらっしゃってますけど、私からちょっとお詫びを申し上げます。

本来であればね、あの自動運転のバスが来て、僕も一緒に乗って何かやりたかったのはもう本当にその気持ちなんですけれども、まずご説明があった通り、やはり安全性が非常に重要でありますから、安全性を大事にするということで、イベントはこの形で実施させてもらいたいと思いますけれども、そこをご理解をお願いしたいというふうに思います。

また併せてですね、南河内でこの万博のレガシーである自動運転の技術をどんどん展開していくという方針は全く変わりありませんので、ぜひ地元の首長の皆様のご理解、そしてまた市町村民の皆さんのご理解をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

○松原大阪府都市整備部事業調整室新交通施策推進課参事

ありがとうございました。

以上をもちまして、第8回新モビリティ導入検討協議会を終わらせていただきます。

皆様、本日はどうもありがとうございました。